山形市立大郷小学校 学校だより





令和7年6月13日 第5号 校長 鎌田 史顯

山形の教育課題のI番目は「学力向上」

かい

今年度、山形県の教育長さんの話などで、何度も強調されている「山形県の教育課題」の | 番目は「学力向上」で、2番目は「いじめ・不登校」です。学校だより第5号は、学校で一番大切にすべき「学習」「学力向上」をテーマにします。ぜひご一緒にお考えいただきたいと思います。

もともと山形県は、「教育県山形」「実践の山形」と言われ、先生方は教育活動に情熱を持ち、より良い授業づくりや授業研究に熱心に取り組んできました。他県で授業中に勝手に立ち歩いたり、先生の指示に従わなかったりするような「荒れた学校」が増えた時代でも、「山形では家庭と学校がしっかりしているから、学校が落ち着いている」と言われていました。学校と保護者・地域の皆様とが厚い信頼関係で結びつき、先生方の「子供たちのために」という熱い指導があれば、「学校の好循環」が生まれ、「学力向上」が実現されるのは当然のことなのです。

さて、全国学力・学習状況調査が 2007 年に始まりましたが、数年間、山形県は他の都道府県と比較で、小・中学校共に上位にランクインしていました。しかし、毎年大きく下がり続けており、**昨年度の全国学力・学習状況調査では、国語で 39 位・算数で 44 位**となりました。これは正答率をもとに順位づけしたものですが、国語で I 位の秋田県は「正答率 7 3 %」に対して、山形県は「正答率 66%」、算数は I 位が東京都「正答率 68%」ですが、山形県は「正答率 59%」で最下位の県と I ポイント差です。言い換えると、「この 18 年間で、学力上位の山形県が最下位争いをする状況になってしまった」のです。

全国学テは都道府県の競争がねらいではありません。しかし、全国で学習指導要領をもとに教育が展開され、同じ問題に取り組んだ結果が出るならば、正答率が高い方が望ましいのは当たり前です。そして、明確になった「正答率が低い分野や領域・問題」は、復習・補充すべきポイントですから、全都道府県、全市町村、全学校が全国学テの結果を受けて、改善策や具体的な「アクションプラン」を作成して取り組んでいます。

大郷小学校の現状はどうなのでしょうか。県内でも山形市は正答率が高い傾向にありますが、本校は山形市平均よりも低い傾向にあります。昨年、学校たより第 8 号で全国学テの結果をお知らせしていますので、HPでぜひご確認ください。

その時の「児童質問紙での回答」で、大郷小の子供たちに顕著なものとして、「家庭学習が不足している」「メディアの時間が長い」「算数は苦手」「自分の考えを整理したり、文字にしたりすることが苦手」がありました。この課題は、現在も多くの児童にあてはまります。先日、低学年でも「オンラインゲーム」をしていることがわかっており、多くの児童が「LINE などの SNS」「TikTok や Youtube」に多くの時間を費やしています。「Fortnite」「LINE」「TikTok」「Youtube」などほとんどのゲームや SNS は「13 歳未満での使用を禁止」としていますが、「自分でコントロールできない年齢だから」であり、保護者の監督責任が問われる大問題です。

特に、「自分の部屋でメディア機器を使っているので、何をしているのかわからない」「家にいる時はずっと使っている」「頻繁にメールや LINE が来るので、布団に入っても使っている」「夜

8時・9時にオンラインゲームで集まっている」ような状況では、自主学習や宿題はしっかりと提出できているのでしょうか。今夢中になってすべきなのは、ゲームや SNS ではないはずです。

大郷小の児童の中に「宿題の提出率が低い」「学習用具忘れが多い」傾向が強く、なかなか改善できない児童がいます。義務教育の9年間は、学習でもスポ少や部活動などでも、「成果を得るためには、何か我慢してでも精一杯努力する」ことを覚える時期です。中総体や高校受験前に夜中まで SNS やゲームをしている人は、良い結果を得られるはずがありません。「自分の将来を切り拓く」「自分の夢の実現」のためには、「目先の楽しみや喜び」ではなく、「自分のために、努力を積み重ねる大切さ」をぜひ教えていただきたいですし、ゲームでは得られない「自分の成長」「努力の成果」という『こころからの喜び』を、義務教育の期間に体感させたいのです。

今の学校教育は、「小学校 | 年生からの学習が、ずっと積み重なる」ので、「小学校時代の積み残しやつまずきは、その後もずっと引きずる」可能性が高くなります。小学校 | 年生が「算数ボックス」で数の概念をつかみます。どちらが多いか、合わせていくらになるか、10 はいくつといくつからなっているかなどを経て、足し算や引き算を覚え、 | の位だけでなく、10 の位へと桁数を増やしていきます。2 年生になると繰り上がりや繰り下がりへと発展し、筆算を経て九九を学習します。このように、学習が繋がっていますので、一つのつまずきは、次の学習への理解度を極端に下げ、その後に「わからない」「できない」⇒「おもしろくない」「つまらない」⇒「遊ぶ」「しゃべる」「他の人にちょっかいをかける」…などの悪循環が続く可能性があります。

学習習慣を確立し、基礎的な内容の定着を図るために、保護者の皆様にお願いがあります。

①毎日の課題や宿題を見ていただき、アドバイスやご指導をお願いします。

- ⇒毎日関わることで、できるようになったことやどんどん覚えていく姿がわかります。保護者の 方が喜ぶ姿を見せたり、誉めたりする場面にしてください。
- ②計算ドリルや音読では、時間の計測や音読を聞いてのご指導などを丁寧にお願いします。
- ⇒どこにつまずいているのか、ごまかしていないかなど、一緒に取り組んでいただくことで様々わかることがあります。また、スラスラ読めたり、時間がかかった計算がスムーズになったりする上達する姿に気づきます。目標を設定し、「あと何秒がんばろう」などの短期目標を一つ一つクリアする成功体験を、ぜひ積み上げてください。一緒に達成を喜んでください。
- ③学習用具忘れや宿題の未提出など、学校での様子を細かく連絡いたしますので、口頭での強い 指導ではなく、「学習用具を一緒にそろえる」「宿題に一緒に取り組み、提出できる状態にする」 など、そばで一緒に「できるまで」「習慣化するまで」の粘り強いご指導をお願いします。
- ⇒「何度も言っているんですけど…」「本人はしたって言うんですけど…」は、保護者が直接関わっていない方がよく言う言葉です。「子供のために、できるまで」必ず付き添ってください。

